

千代田区ヒートアイランド対策計画の見直しへ向けた方向性について（案）

千代田区におけるヒートアイランド現象について、令和 4 年度に現状調査・検証を実施し、進捗状況などを把握した。

この現状調査・検証結果を踏まえ、千代田区ヒートアイランド対策計画の見直しに向けた方向性について 5 つの項目を以下のとおり示す。

①千代田区におけるヒートアイランド現象について

- (1) 千代田区のヒートアイランド現象については緩和へ向けての効果が確認できたため、引き続きヒートアイランド対策を推進

②千代田区のヒートアイランド対策について

- (1) 施策の整理
→「緩和策」「適応策」を踏まえ検討
- (2) 用途別への施策の追加
※用途（道路、公園、建物、水辺）

③まちづくりについて

- (1) まちづくりに関する項目の追加
以下の内容を踏まえ検討
→都市計画制度（地区計画や都市開発諸制度など）
→マネジメント（都市マネジメント、エリアマネジメントなど）
→開発（大規模開発事業など）

④地域別の対策について

- (1) 地域別の対策についての項目の追加
→8 地域別（①万世橋地域、②和泉橋地域、③神保町地域、④神田公園地域
⑤富士見地域、⑥番町地域、⑦大手町・丸の内・有楽町・永田町地域
⑧皇居周辺地域）

⑤情報発信について

- (1) 情報発信についての項目の追加

千代田区ヒートアイランド対策計画の見直しへ向けた方向性の5項目についての詳細を以下のとおり示す。

① 千代田区におけるヒートアイランド現象について

現状調査・検証結果により平成15年度から令和4年度にかけて千代田区内の地表面温度の低下傾向が確認されるなど、ヒートアイランド現象の緩和へ向けての効果が確認できた。

このようなヒートアイランド現象の緩和へ向けての効果は、平成18年度に「千代田区ヒートアイランド対策計画」を策定し、緑化や遮熱性舗装をはじめ、様々なヒートアイランド対策を実施してきたことによる効果であると考えられる。

しかしながら、千代田区の最高気温が35℃以上の酷暑日や最低気温が25℃を下回らない熱帯夜の観測日数は、100年前から徐々に増加していることも確認されている。

世界的な気候変動の推移や、現代の生活における大量のエネルギーを必要とする社会構造が短期間で変化することが考えにくいことを踏まえると、都市部における熱環境の悪化は、今後も進行していくものと考えられる。

このような状況下において、ヒートアイランド対策に対する社会的要請は、ますます強くなっていくものと考えられ、ヒートアイランド対策の施策を今後も継続的に実施していくことが必要である。

表-1 千代田区での表面温度ランク数値

H15	R4	差
5.02	4.87	-0.15

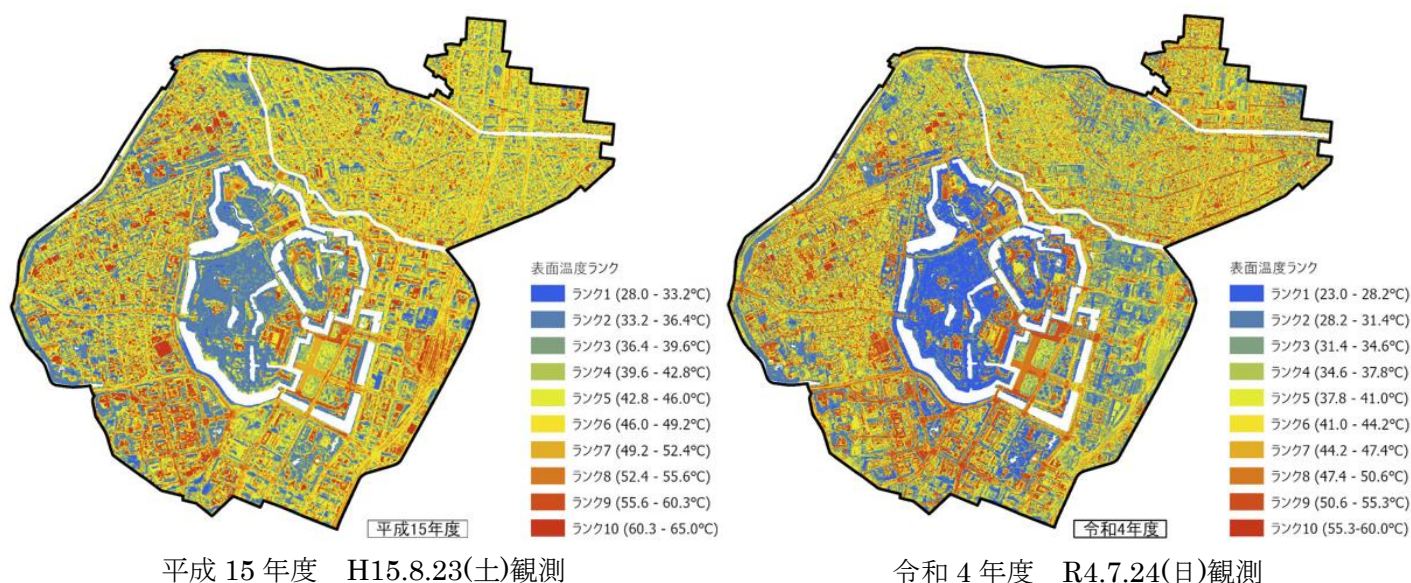


図-1 ランク区分した地表面温度分布画像

②千代田区のヒートアイランド対策について

(1) 施策の整理

千代田区ヒートアイランド対策計画により実施している 21 事業について、現状調査・検証結果からヒートアイランド現象への具体的効果の有無が確認されたため、整理が必要である。なお、整理の際には「緩和策」「適応策」の考え方を踏まえ整理する必要がある。

1) ヒートアイランド現象への具体的効果が確認された施策 (13 事業/21 事業)

千代田区で実施している 21 事業のうち 13 事業について、ヒートアイランド現象への効果は現状調査・検証結果によって確認されている。

表-2 ヒートアイランド現象への具体的効果が確認された施策

事業	区分	効果
①保水・透水性舗装 (道路・公園)	被覆	熱分布 (P4-18~19) サーモカメラ (P6-5)
②保水性舗装等への打ち水	被覆	打ち水により保水性舗装の効果を高めるため
③遮熱性舗装	被覆	熱分布 (P4-11~12、P4-18~19、 P6-16~17) サーモカメラ (P6-4)
④学校校庭の非蓄熱化	被覆	熱分布 (P4-18~19)
⑤公開空地等敷地内舗装の被覆対策	被覆	熱分布 (P4-18~19) サーモカメラ (P6-5)
⑥敷地内緑化の推進	緑化	熱分布 (P4-18~19、P6-12) サーモカメラ (P6-9)
⑦建物緑化の推進	緑化	熱分布 (P4-18~19、P6-13)
⑧外壁材 (窓等) の遮熱・断熱化	被覆	熱分布 (P4-18~19)
⑨街路樹の再生・整備	緑化	熱分布 (P4-18~19) 気温 (P5-38~40) サーモカメラ (P6-4~5) 樹木成長 (P9-1~9)
⑩公園への高木植栽	緑化	熱分布 (P4-18~19、P6-6、P6-15) 気温 (P5-35~37) サーモカメラ (P6-6)
⑪水面の保全	水面保全	熱分布 (P4-18~19) サーモカメラ (P6-7)
⑫施策に直結する抑制対策調査 (ドライ型ミスト)	その他	サーモカメラ (P6-5~6)
⑬熱中症対策	その他	熱中症による救急搬送人数の減少に効果があるため

2) ヒートアイランド現象への具体的効果が確認することが難しい施策

(8 事業/21 事業)

千代田区で実施している 21 事業のうち 8 事業について、ヒートアイランド現象への効果は現状調査・検証結果によって確認されていないものの、区の他の計画などへの効果があることから、実施を継続することが必要と考えられる。

表-3 ヒートアイランド現象への具体的効果が確認することが難しい施策

事業	区分
①省エネルギー化による排熱抑制	省エネ
②エアコン室外機からの排熱抑制	省エネ
③街路灯の排熱抑制	省エネ
④下水の温度差エネルギー（下水への排熱）	省エネ
⑤エネルギー供給者との連携による省エネ・排熱抑制指導	省エネ
⑥ヒートアイランド対策計画書の提出義務付け	その他
⑦千代田区マネジメントシステム（CES）の普及	その他
⑧環境イベント等による周知活動	その他

(2) 用途別への施策の追加

千代田区ヒートアイランド対策計画により実施している 21 事業の区分別の実施箇所をみると、被覆対策・緑化対策・その他対策のドライ型ミストは道路、公園、建物などで行われており、様々な場所で複数の対策が実施されていることが確認できる。

以上から、共通している施策を用途別に整理することで、対策が必要な用途でのヒートアイランド対策の適切な選定を可能にしたうえで、効果的なヒートアイランド現象の抑制を図っていく必要がある。

表-4 21 施策の区分別の実施箇所（用途別）

用途	区分					
	被覆	緑化	水面保全	その他		省エネ
	遮熱性舗装 保水性舗装 打ち水など	高木 低木など	水質など	ドライ型ミスト	熱中症	
道路	○	○		○	○	○
公園	○	○		○	○	○
建物	○	○		○	○	○
水辺		○	○		○	

③まちづくりについて

(1) まちづくりに関する項目の追加

まちづくりに関する項目については、「千代田区都市計画マスタープラン（令和3年5月）」の第2章に記載されている「まちづくりの理念・将来像・基本方針」を考慮しつつ、以下の内容を踏まえた上で検討する必要がある。

1) 都市計画制度（地区計画や都市開発諸制度など）

まちづくりにおいては、都市開発諸制度（再開発等促進区を定める地区計画・高度利用地区・特定街区・総合設計）や都市計画法・建築基準法に基づく地区計画、千代田区型地区計画など、多くの都市計画制度が活用されている。

ヒートアイランド現象に対する緩和策・適応策を、効果的・効率的に実施するためには、このような都市計画制度の内容に沿ったものにして、まちづくりに適切に組み込んでいく必要がある。そのため、都市計画制度に関する項目の追加が必要となる。

2) マネジメント（都市マネジメント、エリアマネジメントなど）

まちづくりには、土地利用規制や都市施設、インフラの計画・整備だけでなく、管理運営や更新、新たな利活用など、時間軸を意識した都市の運営・経営を行う都市マネジメントも重要である。

千代田区内の様々な空間・資源・サービスの高度化・最適化、課題の解決や、官民の公共空間の一体的な管理・活用による緑化の推進、まちの安全・安心の向上などの地域の環境改善といった、都市マネジメントの現状を把握することによって、ソフト面を中心とするまちづくりに、ヒートアイランド対策を適切に組み込んでいく方法を検討できる。

また、より小規模な特定エリアを対象にして、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための区民・企業等による主体的な取り組みを内容とする、エリアマネジメントの取り組みも進められている。

ハード面だけに頼らない、区民等が主体となったヒートアイランド対策として、地域界隈の個性・魅力や地域の現状を活かした対策を検討するにあたっては、同じ視点に基づくまちづくり活動であるエリアマネジメントを前提とする必要がある。

さらに、「千代田区緑の基本計画（令和3年7月）」では、緑のエリアマネジメント創出を目指すエリアにおいて、区民等が緑づくりに中心にかかわることのできる仕組みや体制が構築されている。ヒートアイランド対策において、緑陰効果など、緑が重要な役割を果たすことを考えると、「千代田区緑の基本計画（令和3年7月）」における施策などを踏まえた検討を通して、区民等が主体となって関わることのできるヒートアイランド対策の具体化なども期待できる。

これらより、都市マネジメント、エリアマネジメントなど、マネジメントに関する項目の追加が必要となる。

3) 開発（大規模開発事業など）

開発については、現状調査・検証の中で再開発事業によるヒートアイランド現象への効果を検証した。大規模開発エリア(周辺含む)の範囲の熱分布画像から表面温度のランクを高温から低温まで10段階に区分し、平成15年度と令和4年度の表面温度ランクの割合を求め、その比較を行った。

その結果、再開発前の平成15年度に比べ、再開発後の令和4年度では、表面温度ランク数値が低下していることが確認できた。

これは様々なヒートアイランド対策の施策の実施や建物の高層化により日陰面積の増加などの影響による効果であると確認できる。

このように複数の施策を実施し、ヒートアイランド現象の対策を推進するためには、まちづくりとの連携が重要である。

よって、ヒートアイランド対策計画の見直しに向けた方向性については、開発なども含めたまちづくりとの連携に関する項目が必要である。

表-5 大規模開発エリアでの表面温度ランク数値

場所	H15	R4	差
淡路町二丁目西部地区第一種市街地再開発事業	5.51	4.43	-1.08
飯田橋駅西口地区第一種市街地再開発事業	5.29	4.08	-1.21
神田練塀町地区第一種市街地再開発事業	5.05	4.36	-0.69
平河町二丁目東部南地区第一種市街地再開発事業	5.80	5.45	-0.35
富士見二丁目北部地区第一種市街地再開発事業	5.59	4.23	-1.36
大手町都市再生特別地区Aゾーン	5.93	3.99	-1.94
大手町都市再生特別地区Bゾーン	5.59	3.72	-1.87
大手町都市再生特別地区Cゾーン	5.96	5.06	-0.90
大手町一丁目1地区都市再生特別地区	5.47	4.33	-1.14
大手町一丁目2地区都市再生特別地区	5.86	4.32	-1.54
大手町一丁目6地区都市再生特別地区（大手町の森）	5.40	3.76	-1.64
丸の内三丁目10地区都市再生特別地区	5.82	4.40	-1.42
神田駿河台四丁目6地区都市再生特別地区（ソラシティ）	5.10	4.39	-0.71
日比谷地区都市再生特別地区	5.17	4.69	-0.48
神田駿河台三丁目9地区都市再生特別地区	4.94	4.01	-0.93

④地域別の対策について

(1) 地域別の対策についての項目の追加

1) 8地域別のヒートアイランド現象の状況

千代田区都市計画マスタープランに記載されている7地域別のヒートアイランド現象の状況を比較するため、平成15年度と令和4年度の熱分布画像から把握したところ皇居の緑地を含む富士見地域の表面温度ランク数値のみが他の地域よりも1程度低い数値となったことから緑地の多い皇居周辺を皇居周辺地域とした8地域別のヒートアイランド現象の状況を把握した。

各地域の表面温度ランク数値の結果は、令和4年度の数値で、皇居周辺地域を除く7地域については、全て5前後となっており、熱環境の大きく異なる皇居周辺地域での低い値(3.15)のような著しい差はみられなかった。

しかしながら、皇居周辺地域を除く7地域の詳細をみると、神田公園地域や番町地域で5.35と最も数値が高く、大手町・丸の内・有楽町・永田町地域では4.94と最も低いなど、地域別の違いが確認できた。これらの違いは、皇居の特殊な環境の影響を排除した、地域の実情を反映した結果となっているものと考えられる。

さらに、平成15年度と令和4年度を比較すると、建物更新や開発などによりヒートアイランド対策が進んでいる大手町・丸の内・有楽町・永田町地域では、大きく0.53数値が下がっていることが確認された。一方で和泉橋地域の0.32数値の上昇など、わずかに上昇している地域も見られた。

表-6 8地域における表面温度ランク数値の比較

地域	H15	R4	差
①万世橋地域	5.14	5.24	+0.10
②和泉橋地域	5.22	5.54	+0.32
③神保町地域	4.99	4.97	-0.02
④神田公園地域	5.59	5.35	-0.24
⑤富士見地域	4.91	4.99	+0.08
⑥番町地域	5.09	5.35	+0.26
⑦大手町・丸の内・有楽町・永田町地域	5.47	4.94	-0.53
⑧皇居周辺地域	3.57	3.15	-0.42

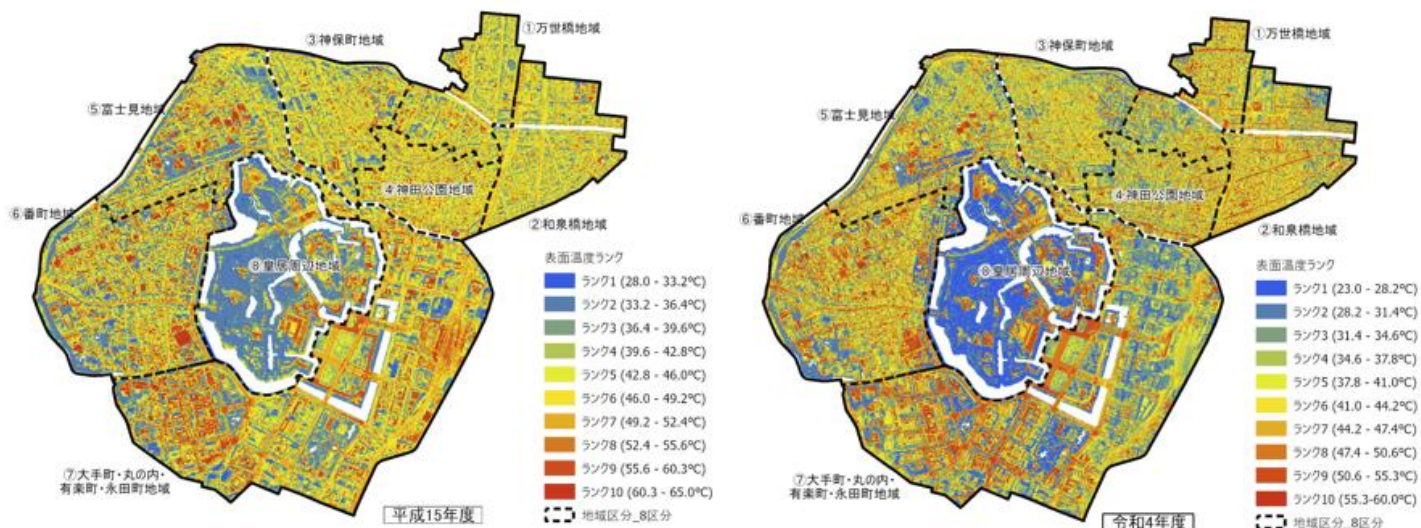


図-2 表面温度ランクと8地域区分

2) 7地域別・4地域別のヒートアイランド現象の状況（参考）

千代田区都市計画マスタープランに記載されている7地域と土地利用などの特徴を踏まえ千代田区内を4地域とした場合でのヒートアイランド現象の状況を把握した。

7地域別では令和4年度の表面温度ランク数値で、皇居を含む富士見地域が4.00と最も数値が低く、神田公園地域と番町地域で5.35と最も数値が高いなど、地域別の違いが確認できた。

さらに、平成15年度と令和4年度を比較すると、建物更新や開発などによりヒートアイランド対策が進んでいる大手町・丸の内・有楽町・永田町地域では、大きく0.53数値が下がっていることが確認された。一方で和泉橋地域の0.32数値の上昇など、わずかに上昇している地域も見られた。

4地域別では令和4年度の値で、皇居周辺地域が3.15と、他の地域が5.00前後となっているのと比較し、著しく低くなっていることが確認できた。

表-7 7地域における表面温度ランク数値の比較

地域	H15	R4	差
①万世橋地域	5.14	5.24	+0.10
②和泉橋地域	5.22	5.54	+0.32
③神保町地域	4.99	4.97	-0.02
④神田公園地域	5.59	5.35	-0.24
⑤富士見地域	4.19	4.00	-0.19
⑥番町地域	5.09	5.35	+0.26
⑦大手町・丸の内・有楽町・永田町地域	5.47	4.94	-0.53

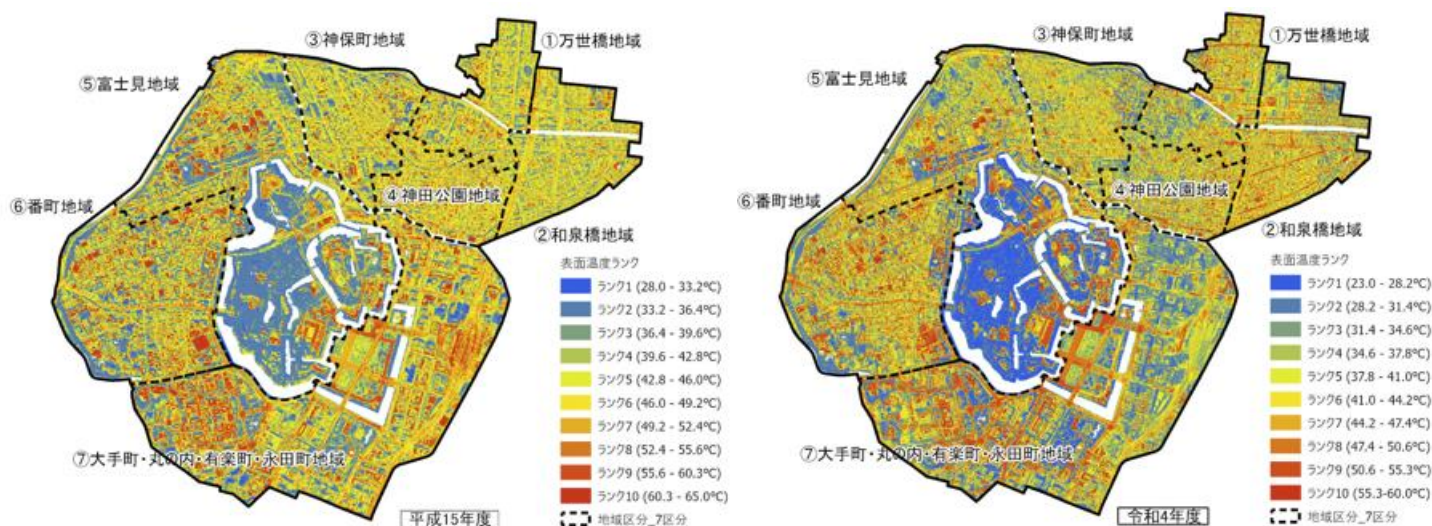


図-3 表面温度ランクと7地域区分

表-8 4地域における表面温度ランク数値の比較

地域	H15	R4	差
①万世橋・和泉橋・神保町・神田公園地域	5.21	5.28	+0.07
②富士見・番町地域	5.01	5.20	+0.19
③大手町・丸の内・有楽町・永田町地域	5.47	4.94	-0.53
④皇居周辺地域	3.57	3.15	-0.42

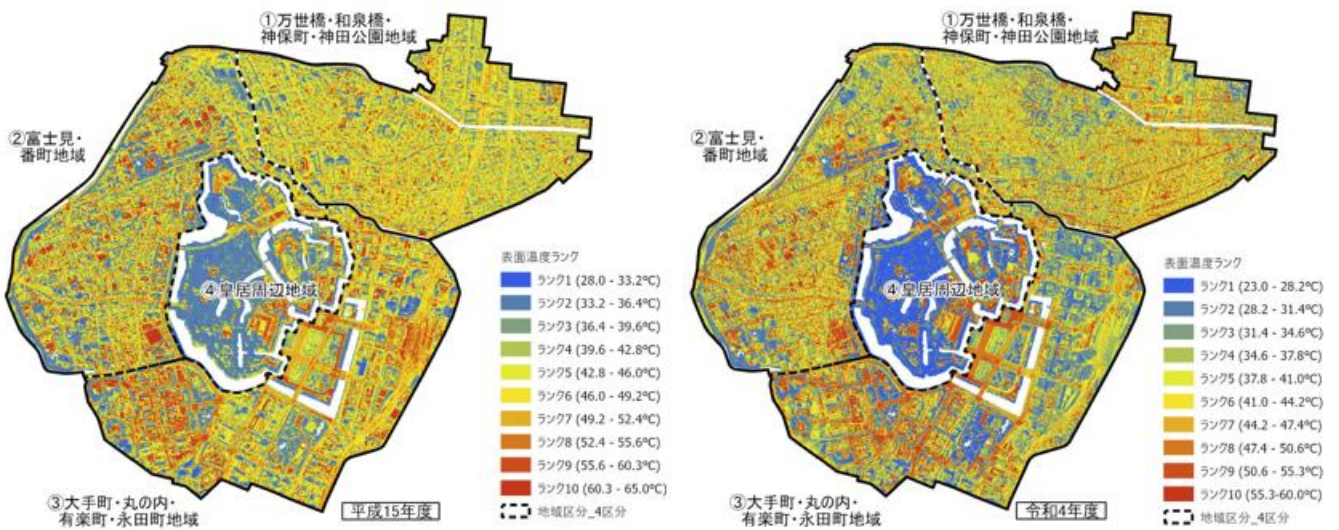


図-4 表面温度ランクと4地域区分

⑤情報発信について

(1) 情報発信についての項目の追加

ヒートアイランド現象やその対策については、例えば道路の遮熱性舗装など計測機器で効果が確認できるものでも、視覚など五感で実感することが難しいといったように、区民が身近な自分事として捉えることが難しい面も存在する。

そこで、実施してきた対策やその効果についての情報発信を行い、区民のヒートアイランド対策に対する意識向上などを図ることが重要となるため、ヒートアイランド対策計画の見直しに向けた方向性について、情報発信の項目が必要である。

◆千代田区ヒートアイランド対策計画改正構成（案）について

千代田区ヒートアイランド対策計画の見直しへ向けた方向性（案）を踏まえ、千代田区ヒートアイランド対策計画改定の構成案を、以下に示した。

1 計画策定の背景

1.1 ヒートアイランド現象

- 1.1.1 ヒートアイランド現象とは（平均気温上昇、熱帯夜増加など）
- 1.1.2 ヒートアイランド現象の原因（人工物、人工排熱、緑化の減少など）
- 1.1.3 ヒートアイランド現象による影響（熱中症、電気使用量、生態系など）

1.2 ヒートアイランド対策への取組み

- 1.2.1 国の取組み
- 1.2.2 東京都の取組み
- 1.2.3 千代田区の取組み
- 1.2.4 民間の取組み

1.3 前計画の評価

- 1.3.1 前計画の概要と評価の方法（20 施策、現状調査検証内容など）
- 1.3.2 施策の取組状況の評価（21 施策、現状調査検証結果など）
- 1.3.3 計画改定へ向けた方向性

2 計画の基本的事項

- 2.1 計画の目的
- 2.2 計画の期間
- 2.3 計画の対象
- 2.4 計画の位置づけ

3 計画の施策

3.1 施策別（被覆、緑化、水面、ドライ型ミスト、熱中症、情報発信など）

ハード：被覆、緑化、水面、ドライ型ミストなど

ソフト：熱中症、情報発信など

〔詳細〕

被 覆：遮熱性舗装、保水性舗装、建物の屋上・外壁の遮熱・断熱、打ち水など

緑 化：敷地内緑化、建物緑化、街路樹、公園の高木など

水 面：水面の保全など

熱中症：日除け、ひと涼みスポット、安全・安心メールなど

その他：ドライ型ミスト、情報発信など

3.2 用途別（道路、公園、建物（事業所・集合住宅）、水辺）

3.3 まちづくり

3.4 地域別

- 8 地域：①万世橋 ②和泉橋 ③神保町 ④神田公園 ⑤富士見 ⑥番町
⑦大手町・丸の内・有楽町・永田町 ⑧皇居周辺

〔現状・特徴〕

①万世橋地域

- ・神田明神やニコライ堂など歴史的資源、神田祭に象徴される祭礼文化など、伝統的な下町の風情を感じることができる。
- ・秋葉原駅周辺の電気街・サブカルチャーのまち、情報技術産業等の新産業拠点としての限界が広がる。
- ・本地域は、南北方向に東側から昭和通り、中央通り、本郷通りが、東西方向に北側から蔵前通り、靖国通りなどの主要道路が整備されている一方で、幹線道路で囲まれた街区の内部は、幅員の狭い道路が多くなっている。公園は、神田明神に隣接する宮本公園や、練成公園、昌平橋東橋詰広場など、比較的小規模のものが存在しており、区立の施設として、昌平小学校、神田児童館などが存在している。本地域には、秋葉原駅周辺を除き、平均敷地規模が小さく、老朽化の進む建物が多い区域が広がっているなかで、大規模開発として、淡路町二丁目西部地区（ワテラス）が平成 25 年に完了している。

②和泉橋地域

- ・人口減少や高齢化、業務地化が進み、問屋街としての限界性が希薄化する一方、マンションなどの立地が進み、区内で最も人口増加率が高い。
- ・商業用地の割合(69.0%)や住宅用地の割合(13.3%)が高くなっている。
- ・本地域は、南北方向に東側から清洲橋通り、昭和通りが、東西方向に靖国通りなどの主要道路が整備されている一方で、街区は、狭隘な道路が多くなっている。公園は、秋葉原駅周辺や神田川沿いに多く分布し、秋葉原駅東口広場や和泉橋南東児童遊園など、その多くは比較的小規模のものとなっている。区立の施設としては、和泉小学校が存在している。本地区では、小規模な敷地で老朽化が進む建物が多くなっているなかで、秋葉原駅を中心に、情報技術産業の機能が集積する新拠点が形成されている。大規模開発としては、神田練塀町地区（住友不動産秋葉原駅前ビル）が令和元年 8 月に完了している。

③神保町地域

- ・多くの大学、印刷・出版業や古書店が集積する個性の強い限界が広がる。
- ・神田川の豊かな環境とともに、大学や楽器店、医療機関などが集積する限界となっている。
- ・本地域は地域の中心に、南北方向に白山通りが、東西方向に靖国通りなど

の主要道路が整備されている。公園は、ワテラスの再開発地区の淡路公園などが存在するほか、明治大学に隣接する錦華公園、小川広場などが存在する。区立の学校などは、神田一橋中学校、西神田児童センターが存在している。本地域は、大名屋敷をルーツとする街区構成となっており、比較的規模が大きい敷地が多くなっているものの、神田神保町などでは、規模の小さい敷地も多く中小建物の老朽化が進行している。神田駿河台をなどの地区は、明治大学など多くの教育施設や医療施設などが立地するなど、文教地区としての特色を有している。大規模開発に関しては、神保町一丁目南部地区（ジェイシティ東京）が平成15年に、西神田三丁目北部西地区（千代田ファーストビル西館）が平成16年に、西神田三丁目北部東地区（千代田ファーストビル東館）が平成10年に完了している。

④神田公園地域

- ・下町らしい路地空間、看板建築、出世不動尊など歴史を感じられる空間が多数存在している。
- ・商業用地の割合(76.5%)が区内で最も高く、神田駅西口通り沿いなど飲食店を中心としてにぎわう界隈となっている。
- ・本地域では、南北方向に外堀通り、本郷通りが、東西方向に靖国通りなどの主要道路が整備されている一方で、幹線道路で囲まれた街区の内部は、幅員の狭い道路が多くなっている。公園は、内神田尾嶋公園、神田児童公園など、比較的小規模なものが多くなっている。また、区立の施設として千代田小学校が設置されている。幹線道路で囲まれた街区の内部は、平均敷地規模が小さく建物の老朽化が進んでいるなかで、大規模開発として、神田小川町三丁目西部南地区が令和3年4月6日に都市計画決定され、今後の実施が予定されているほか、内神田一丁目地区が令和7年度に完了予定となっている。

⑤富士見地域

- ・住宅と地域に根づく商店街の賑わいが調和した生活空間が形成されている。
- ・住宅の割合(24.5%)と区内で最も高いが、教育施設、行政の中核機能、医療施設も多い。事務所建築物の割合(41.4%)は、区内で最も低くなっている。
- ・本地域では、南北方向に目白通り、早稲田通りが、東西方向に靖国通りなどの主要道路が整備されている。公園は、外濠沿いに外濠公園が、皇居周辺に九段坂公園、千鳥ヶ淵緑道など整備されているほか、富士見児童公園、中坂児童遊園などの比較的小規模のものも存在している。区立の学校は、富士見小学校、九段中等教育学校が存在している。外濠公園、靖国通り、目白通りに囲まれたエリアの大半が、法政大学や日本歯科大学などを有する文教地区に指定されているほか、靖国神社など大規模敷地も存在し、落

ち着きのある環境が維持されている。大規模開発に関しては、飯田橋地区（セントラルプラザ・ラムラ）が昭和59年に、富士見二丁目北部地区（飯田橋プラーノ）が平成21年に、飯田橋西口地区（飯田橋サクラパーク）が平成26年に完了している。また、富士見二丁目3番地区が令和4年10月20日に都市計画決定され、今後の実施が予定されているほか、飯田橋駅東地区が令和10年度に完了予定となっている。

⑥番町地域

- ・武家地の町割りを引き継ぎ、落ち着いたと文化的な雰囲気を残す地域である。
- ・住宅の割合(23.2%)が高く、住居系複合市街地が形成されている。
- ・本地域では、南北方向は東端に内堀通り、東西方向に新宿通り、青山通りなどの主要道路が整備されている。公園は、外濠沿いの五番町児童遊園、広さ約一万平方メートルを超える比較的規模の大きい清水谷公園などが設置されている。番町地域では、多くの区域が文教地区に指定されており、区立の学校等施設は、番町小学校、麴町小学校、麴町中学校、四番町児童館、一番町児童館、四番町児童館と多数存在している。本地域は、住宅地の割合が20.1%と区内で最も高くなっているが、事務所建築物の建物用途別延べ床面積比率も46.7%と高くなっており、住環境・業務空間が共存・調和する地域となっている。番町一帯の歴史や趣、落ち着いたを感じる居住地と、内濠・外濠をつなぐ景観軸となる麴町大通り沿いの街並みが形成されているほか、紀尾井町一帯では、立地する国際的シティホテルや、風致地区となっている弁慶濠や清水谷公園などの緑と水辺の豊かな環境、地形の起伏、外濠・見附跡などの歴史的な遺構や建造物などを活かした機能更新が進んでいる。大規模開発としては、麴町四丁目地区[市街地再開発促進区域]（麴町クリスタルシティ）が平成26年に、平河町二丁目東部南地区（平河町森タワー）が平成21年に完了している。

⑦大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

- ・ビジネス・交流の中核機能の集積、文化芸術施設や飲食店の賑わい、国家の行政・司法機関が集積する地域となっている。
- ・皇居外苑や日比谷公園、内濠、日本橋川など、緑と水辺の環境に恵まれる。
- ・本地域では、南北方向は東端の外堀通りから西方向に日比谷通り、内堀通り、桜田通り、六本木通り東西方向に永代通り、晴海通りなどの主要道路が整備されている。この地域では、日比谷公園や皇居外苑、国会前庭といった規模の大きな公園が存在しているが、区立の学校等施設などは存在していない。江戸の大名屋敷の町割りをルーツとする官公庁街とオフィス街を有するまちを基本として、都市再生が進められた結果、食やショッピング、文化交流など、複合的なまちとなっている。大規模開発に関しては、

大手町二丁目地区（大手町プレイス）が平成 30 年 8 月に、大手町一丁目地区（日経ビル、JA ビル、経団連会館）が平成 4 年に、大手町一丁目地区第 2 地区（大手町プレイス）が平成 24 年に、大手町一丁目第 3 地区が平成 28 年 4 月に、有楽町駅前第 1 地区が平成 19 年に、霞ヶ関三丁目南地区（霞ヶ関コモンゲート）が平成 19 年に完了している。また、大手町二丁目常盤橋地区が令和 9 年度に、内幸町一丁目街区南地区が令和 21 年度に完了予定となっている。

⑧皇居周辺

- ・皇居、北の丸公園、内濠、外濠など、大規模な緑と水辺に囲まれた豊かな環境が存在する。
- ・本地域は、皇居外周を内堀通りが走っている。公園は規模の大きな緑地となる北の丸公園が存在しているが、区立の学校などは存在しない。大規模敷地としては、地域の大部分を占める皇居が挙げられ、ビルなどの大規模な建物も少なく、大規模開発は存在していない。

4 推進体制

- 4.1 計画の推進体制
- 4.2 計画の進行管理

資料編

- 資料 1 前計画の 20 施策
- 資料 2 千代田区ヒートアイランド対策計画見直し検討部会の開催概要
 - (1) 委員名簿
 - (2) 開催経緯
- 資料 3 パブリックコメントの実施概要
- 資料 4 用語解説